

くるめ版 学力向上のすすめvol.1

# みんなできり組もう! 学力向上プラン

Step1  
プランの  
作成

Step2  
プランの  
共有

Step3  
プランの  
改善



vol.1では、「プランの作成」と「プランの共有」を中心に紹介します。

Q.1	なぜ学力向上プランが必要なのだろう?.....	P2
Q.2	Step1の学力プランの作成の手順は?.....	P4
Q.3	Step2の学力向上プランの共有とは?.....	P8
Q.4	Step3の学力向上プランを改善とは?.....	P9
Q.5	実践推進校の学力向上のプランを見てみよう!.....	P10
Q.6	学力向上プランの実践に取り組んで感じたよさは?.....	P16

# Q.1 なぜ学力向上プランが 必要なのだろう？

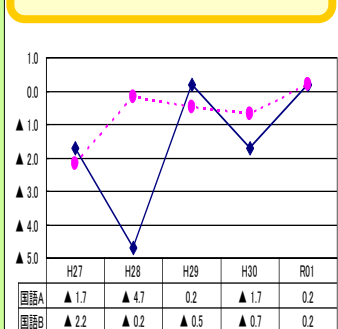


## ① 久留米市の学力は？

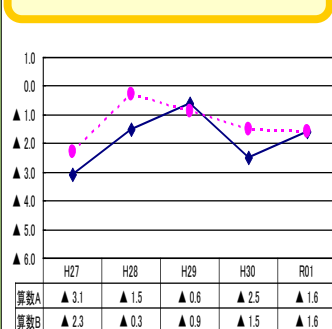
- 全体として学力は向上傾向（学力の実態）
- △ 個別的、一時的な取組も見られる（取組の実態）
- 伸びを全体（全学校 全学年 全学級 子ども一人一人）のものに！

### 全国学力・学習状況調査（H27～R01）

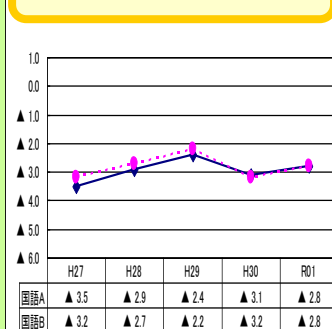
#### 小学校（国語）



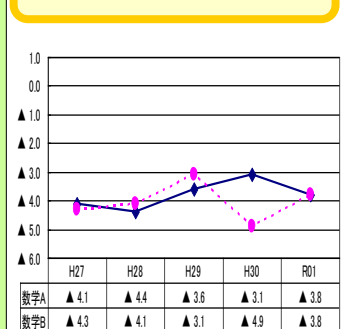
#### 小学校（算数）



#### 中学校（国語）



#### 中学校（数学）



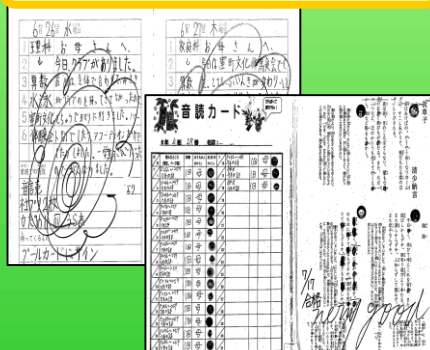
## ② 学力が向上している学校・学年の特徴は？

- 学校全体、学年全体で学力向上の取組を共有
- みんなで取り組むので子ども一人一人に徹底
- 一人一人に徹底するので効果が最大化！

#### 授業の流れを共有



#### 宿題内容を共有



#### 提出物の 書き直し方を共有

#### 学年で交換授業を 実施

#### 生徒指導に 学年全員で対応

### ③学力向上プランはなぜ必要なの？

学校全体で学力向上の取組の共有化を行う

→ **学力向上プラン**

さらに、学力向上プランの実効性を高める

→ **学力向上検証改善サイクル**

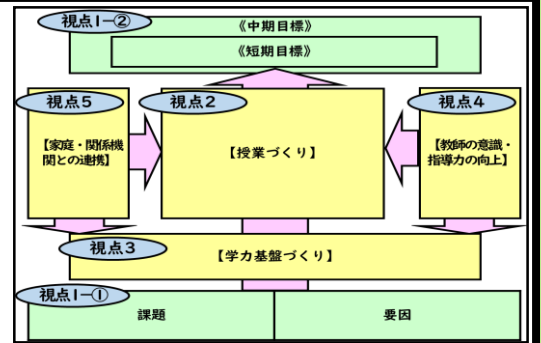
「学力向上検証改善サイクル」は、学力向上に係る日頃の授業を改善することをねらいとしたもので、「Plan (計画) → Do (実施) → Check (評価) → Action (改善)」の4つの段階で構成されます。これまでの指導の反省などから改善点を明確にした上で、PDCAを回していくことが大切です。

福岡県教育センター研究紀要No.202「実効性のある検証改善サイクルによる学力向上」P3

### ④どのようにして進めたらいいの？

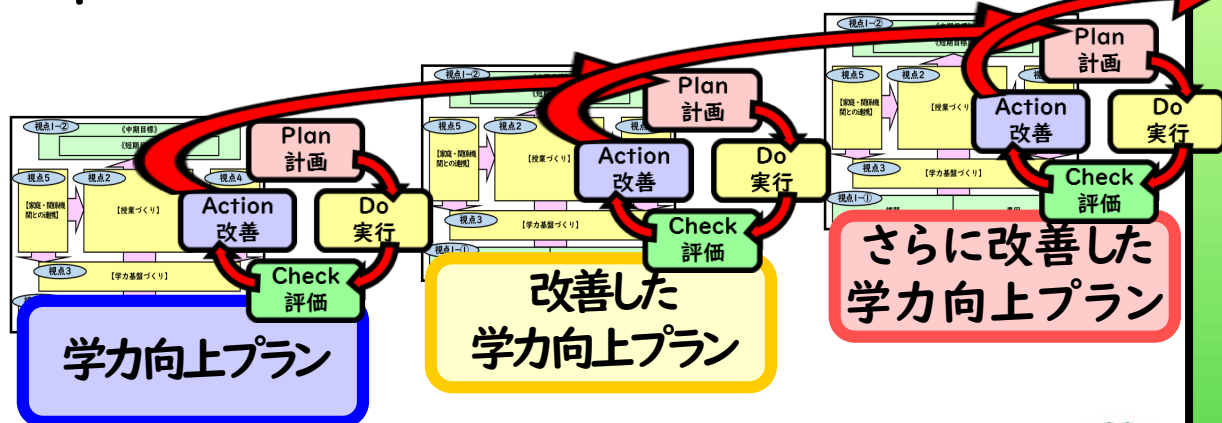
Step1 学力向上プランの作成

- ・課題の分析
- ・要因の検討
- ・目標の設定
- ・取組の設定



Step2 学力向上プランの共有 (みんなのものに)

Step3 学力向上プランの改善 (よりよいものに)



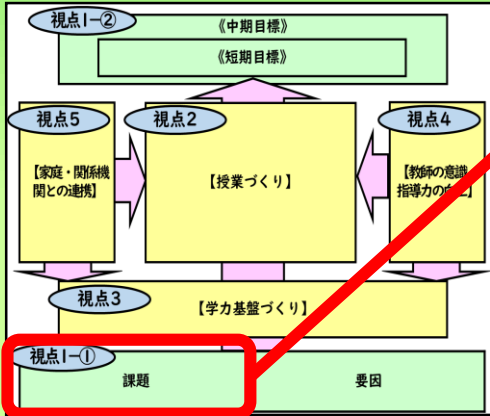
学力向上の取組を共有化するために学力向上プランが必要なんだね。3つのStepはどのように進めたらいいのかな？



# Q.2 Step Iの学力向上プランの作成の手順は？



- ・ 視点1-①（課題の分析）  
子ども達を見つめよう！



分析するデータは？

- ・ 全国・県・市の学力調査
- ・ 子どもの授業評価 等

分析する視点として、

- ① 正答率の高い順に問題を整理
  - ② 解答形式別に正答率の比較
  - ③ 非認知能力の特徴
- の3点を紹介します。

実際に問題を解いてみることも大切です。



- ① 正答率の高い順に問題を整理  
→D層の子どもの「次の一步問題」を見つけ出そう！

正答率の高い順に並び替えた問題

問題番号	正答率(%)		
	〇〇学校	福岡県	全国
2(1)	95.0	95.3	95.2
1(1)	95.0	93.2	93.1
4(1)	90.0	83.1	82.7
3(1)	90.0	82.7	81.8
3(3)	80.0	76.4	74.9
2(2)	75.0	77.2	78.6
4(2)	70.0	68.6	66.0
4(3)	65.0	65.5	62.6
2(4)	60.0	58.6	60.1
1(2)	55.0	60.0	60.3
2(3)	50.0	50.6	52.1
3(4)	45.0	47.6	47.0
1(3)	40.0	42.9	43.9
1(2)	30.0	31.3	31.1

次の一步問題

第1四分位(D層)が正解した問題数

	〇〇学校	福岡県	全国
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	9.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

平成31年度全国学力・学習状況調査課(算数)を基に作成

第1四分位の7問目までは、多くの子どもが正解していることがわかります。そこで、8、9問目を「次の一步問題」と考え重点的に取り組む問題として設定します。

## ②解答形式別（選択、短答、記述）に正答率の比較 →授業でどのような発問が必要なのか見つけ出そう！

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			〇〇学校	福岡県(公立)	全国(公立)
	全体	14	70	67	66.6
学習指導要領の 領域	数と計算	7	60.0	63.5	63.2
	量と測定	3	50.0	52.0	52.9
	図形	2	75.0	76.6	76.7
	数量関係	7	70.0	68.1	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	8	60.0	62.3	62.2
	数量や図形についての技能	4	70.0	73.3	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	75.0	70.4	70.1
問題形式	選択式	5	75.0	75.8	75.7
	短答式	5	70.0	73.1	72.8
	記述式	4	45.0	46.8	47.4

平成31年度全国学力・学習状況調査結果（算数）を基に作成

学力調査結果の問題形式ごとの正答率を県や国と比較すると、子ども達の解答形式による特徴が見えてきます。県全体としては、記述式の問題に課題があると分析されています。自校の子ども達の結果を見て、短答式に課題が見られたときは、記述式だけではなく、短答式で答えさせる発問を授業の中で意識して取り組む必要があります。

## ③非認知能力の特徴

→学力と質問紙の結果との相関を確認しよう！

- (5) 自分にはよいところがあると思いますか。
- (8) 将来の夢や目標を持っていますか。
- (10) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。
- (12) 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- (13) 学校のきまりを守っていますか。
- (18) 学校の授業時間以外に、普段どのぐらいの時間勉強しますか。
- (35) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
- (37) 国語の勉強は好きですか。
- (39) 国語の授業の内容はよく分かりますか。
- (41) 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりする時に活用していますか。
- (46) 算数（数学）の勉強は好きですか。
- (48) 算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。
- (50) 算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

「非認知能力」とは、自信や意欲、志、やり遂げる力、協働する力、コミュニケーションの力、感情をコントロールする力など  
福岡県教育委員会「学力向上プランの作成・活用について」

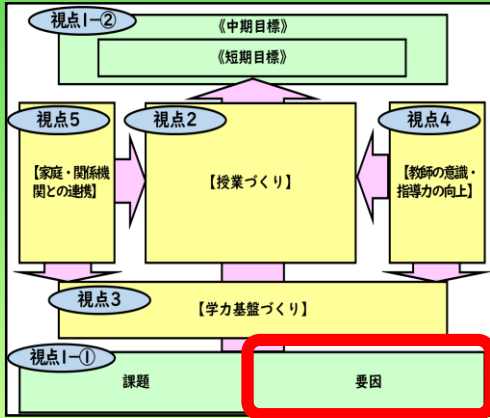
テストの数値には  
表れない子どもの  
課題が見られる場  
合があります。

「(文部科学省主催)令和元年度全国学力・学習状況調査結果説明会」資料を基に項目を選定



# 視点1-① (要因の検討)

課題が見られる理由を考えよう！



- ・授業づくりに課題はないか？
  - ・学力基盤づくりは十分か？
  - ・教員の意識・指導力は？
  - ・家庭や関係機関との連携は取れているか？
- の4点から要因を考えてみましょう。

指導生徒質問紙  
学校質問紙、授業  
評価から傾向を見  
てみましょう。



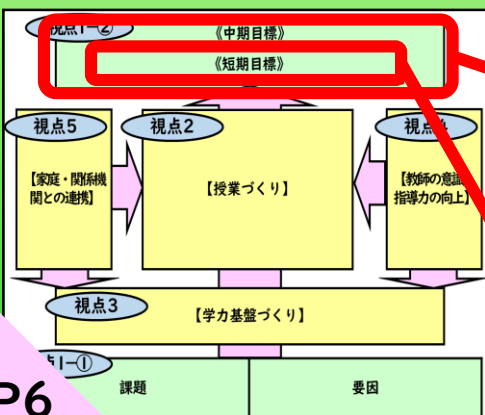
記号等で、どの課題が、どの要因から生じていると考えているのかを明確にしましょう。

## 視点1-①

課題	要因
課題A	要因①
課題B	要因②
課題C	要因③
課題D	要因③

# 視点1-② (目標の設定)

目指す子どもの姿を決めよう！



「中期目標」とは？

→ 義務教育9年間で目指す姿

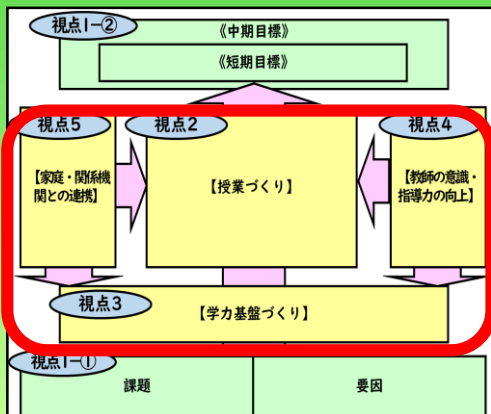
「短期目標」とは？

→ 1年間で目指す姿

※小学校は、次年度の中1の姿まで

# 視点2～5（取組の設定）

## 何に取り組むのかを決めよう！



### 各視点の取組の

- ・ 関連付け
- ・ 具体化
- ・ 焦点化
- ・ 重点化

等の4点から考えましょう。

「関連付け」とは？…視点1-①のどの要因に対応した取組なのかを確認！

（P10からの実践推進校の学力向上プランを参照）

「具体化」とは？…何を、いつ（までに）、どの場面で、どの程度行うことで、どんな姿を目指すかを明確化！（下の記述例を参照）

「焦点化」とは？…取組をたくさん決めるのではなく、これだけは全員で取り組むものだけに数を厳選！

「重点化」とは？…視点2～5の取組から、まずはどの取組を徹底させることが大切なのか順番を決定！

### 具体化された取組の記述例

#### 視点2

〔取組指標〕 単位時間で習得する具体的な知識、技能を週指導計画案に毎時間記入

〔成果指標〕 子どもの授業評価の「毎時間の授業で何を学習したのかがはっきりしている」が3.5以上

#### 視点3

〔取組指標〕 自分で目標を決め、取り組み、達成感を味わう活動の設定（毎月1回、学級活動で）

〔成果指標〕 「自分にはよいところがありますか」の項目で当てはまるが50%以上

#### 視点4

〔取組指標〕 定期考査に学力調査問題等を参考にした問題を出題（各学年、各教科、1問以上）

〔成果指標〕 教員アンケートの「生徒は習得した知識、技能を活用して課題を解決している」の項目で3.5以上

#### 視点5

〔取組指標〕 家庭学習取組表の活用（毎月30日提出、保護者のコメントの記入）

〔成果指標〕 質問紙調査「自分で計画を立てた勉強」の結果が全国+1.0

# Q.3 Step 2の学力向上プランの共有とは？



共有→みんなのものにするために

作成する時は？

→ 校内研修に設定し、みんなで取り組もう！



みんなで学力調査問題を解いたり、課題を出し合ったりすることで、学力向上プラン作成に関わる場を設定しましょう。

そのことが、一人ひとりの学力向上プランの理解や学力向上プランに取り組もうとする意識の向上につながります。

共通の目標や手立しがあるので、共通の話題も増え、取り組みがしやすいから

職員間の話題になり、協働意識が高まるといいね！  
(実務推進校アンケートより)



作成した後は？

→ 日常的に目に入るように工夫しよう！



せっかくの学力向上プランも活用しないと効果が発揮されません。校内の先生方の目に入る場所に学力向上プランを掲示することで、日常的に意識できるような工夫をしましょう。一人ひとりの先生が意識することで、取組が徹底することにつながります。

上に紹介した2つ以外にも共有化する方法はありそうだね。各学校に合わせたアイデアを考えよう！





# Q.4 Step 3の学力向上プランを改善とは？



改善→よりよいものにするために

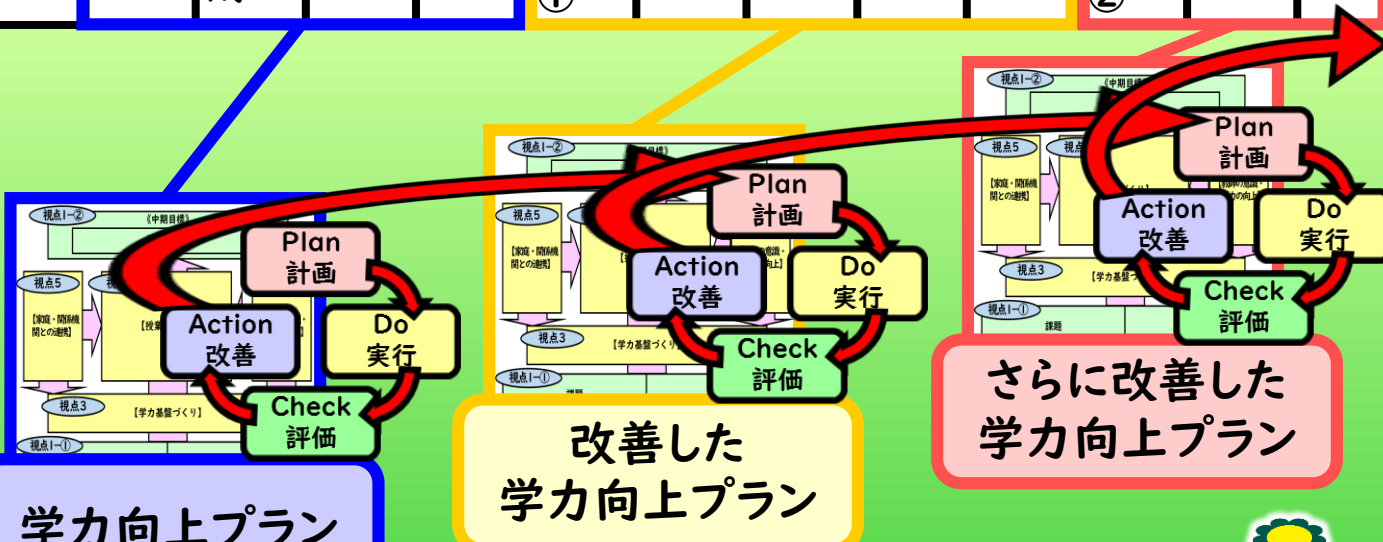
学力向上プランをより実効性のあるものにするためには？

→ PDCAサイクルに取り組もう！

→ 学力向上ロードマップの作成が必要！

## 学力向上ロードマップの例 (令和元年度)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学力調査等	〔中〕市調査 全国調査	〔中〕市結果	県調査	授業評価① 全国結果	県結果				授業評価② 〔小〕市調査	〔小〕市結果		
PDCA	P	P	D	C	AP	D	D	D	C	AP	D	CA
内容	自校採点	学力向上 プラン作成	授業改善	検証会議	学力向上 プラン改善①	授業改善			検証会議	学力向上 プラン改善②	授業改善	検証会議



3つのStepのポイントがわかったよ。  
どんな学力向上プランにしようかな？



# Q.5 実践推進校の学力向上プラン ンを見てみよう!



## 推進校①：合川小学校の学力向上プラン

### Step1 (作成) イチオシ Point! 「視点2と 主題研修 を関連」

視点2の取組を  
校内研修の中で  
具体化に取り組  
みました。

○めあてとまとめ



校内研修の  
「問いを引き出す  
活動」で具体化

○交流活動



校内研修の  
「再考する活動」  
で具体化

#### ■視点1-②

《中期目標・(指標)》一人一人の表現力、  
①令和4年度の全国調査の標準化得点：国語  
②標準学力検査 CRT：評定1の子供が

《短期目標・指標》主体的に学習に取り組む、学習の  
《成果指標》令和2年度の全国調査の標準化得点：  
令和2年度標準学力調査CRT：国語と

#### ■視点5

##### 【家庭・関係機関との連携】 〈取組(指標)〉

- ④家庭学習の手引きによる「家庭学習がんばりカード」、家族de漢字検定、家族de読書の実施(学期に1回の実施)
- ①②放課後学習会をアンビシャスの方と共同実施(学期に4回以上)

##### 〈成果(指標)〉

- ◆がんばりカードの回収率向上(全クラス95%以上)
- ◆家庭学習の完全実施(家庭学習10分間×学年が達成できる子供50%以上)

#### ■視点2

##### 【授業づくり】

〔基礎・基本の確実な習得〕

##### 〈取組(指標)〉

- ①算数科においてめあてとまとめのある単位時間で習得する知識や技能を明確
- 〈成果(指標)〉
- ◆算数科においてめあてをもとに、主眼とができる。児童評価(1学期3.0以上)

〔根拠を明確にして書きまとめ、解決した〕

##### 〈取組(指標)〉

- ②算数科において図や式と関連させ、自分で自分の考えを交流する活動の実施
- 〈成果(指標)〉
- ◆児童評価(1学期3.0以上)：4段階評定

#### ■視点3

##### 【学力基盤づくり】

##### 〈取組(指標)〉

- 国語科の「ことばの宝箱」を使った文章表現、本の読み
- 毎朝のパワーアップタイムの実施 月…音読、火・金…

##### 〈成果(指標)〉

- ◆標準学力検査CRTで書く内容(前年比各学年1ポイント)

#### ■視点1-①

### 全国学力・学習状況調査及び児童生徒による授業評価から見た課題

標準化得点	国	算	○条件を満たして決められた字数で自分の考えをまとめて書くこと ○四則計算の式の意味を理解し、複数の数量(情報)から必要な数量を選び立式すること。
質問紙調査	○自分で計画を立てているか→○低い。○算数の授業で学習したことを普段の生活の中でいかすことができているか→○p ○このことから学校での学びが生活の中で生かされ、つながっているという実感をもつことができているか。		

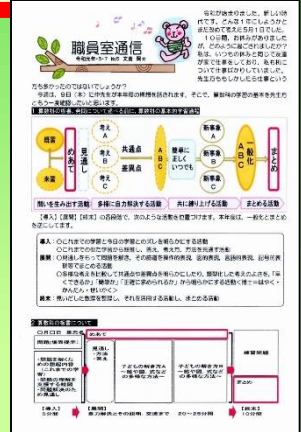
# Step2 (共有) イチオシPoint! 「ちょっと研修+職員室通信」



「視点2で示す授業」の共通理解を図るために、①放課後に短時間の研修、②日常的に授業を見る機会の設定、③授業内容をまとめた通信の発行を行いました。また、先生方のニーズから、授業開きや生徒指導の内容についても実施しました。

話し合う力を高め、学び合う子供の育成  
○以上 算数 ○以上  
○%以下

基礎・基本を習得し、積極的に活用する子供の育成  
国語○以上 算数○以上  
算数とともに、評定1の子供が○%以下



【職員室通信】

## ■視点4

### 【教員の意識・指導力の向上】 〈取組（指標）〉

- ①②③ 指導案などの授業交流学习会を年間1回以上実施
- ①②③ 職員室通信を週1回以上発行し授業の基礎・基本の発信。終礼前、希望者による研修会を職員室通信をもとに月2回以上実施
- ①②③ 主題研に応じた指導案を作成した研修会を年に1回実施
- ④ 小中合同研修会(年2回)

### 〈成果（指標）〉

- ◆ 教師による「学習に関するアンケート(3.0以上 4段階評定尺度)

授業、まとめと主眼の一致した授業(1にするため週案にめあてと活動を記入)  
つながる学びや自分の考えを書く(4段階評定尺度)

ことや考えを表現する力の育成)

分の考えを書く活動やペア・グループ(毎時間実施)

尺度)

聞かせや学校図書館の利用促進  
計算、水…読書、木…作文) 評定1の子供への個別指導

UP) ◆CRTでの「自分が好き」を1up

## 要因（授業づくりやその他学校の学力向上の取組）

- ①まとめと主眼の一致、まとめのある授業の徹底が不十分。評定1の子供たちへの補充的な指導が不十分。
- ②問いに対して自分の考えを書くときの語彙力の不十分さ、友達に対して相手を考えた言葉遣いや態度の育成が不十分。
- ③校内研修に対する理解が不十分。授業力と学級経営力の向上。
- ④家庭学習の内容、取り組ませ方に学級での差。

学力向上  
プランと校  
内研修の取  
組を重ねる  
ことは、取  
組の焦点化  
と同時に共  
有化にもつ  
ながるね!



# 推進校②：城島小学校の学力向上プラン

## Step2 (共有) イチオンPoint! 「週指導計画への位置づけ」

視点2の取組を実施する授業を週指導計画に書き込むことで、計画的な実施につなげました。

国語	算数	英語	理科	社会
じつをたづねよう 「どんなことで、どんなことをするからよくなるか、しりあうかな」	いっしょにつけてよ 「人権委員会に向けて、練習しよう。」 -保護ごとに練習-体育館	いっしょにつけてよ 「人権委員会に向けて、練習しよう。」 -保護ごとに練習-体育館	大気汚染問題 1 「大気汚染がひどいから、練習しよう。」 -おもしろい問題-定規ルートの図解	いっしょにつけてよ 「人権委員会に向けて、練習しよう。」 -保護ごとに練習-体育館
まあるいゲーム 4 「上から投げたり、下から投げたりして、おもしろいゲームをしよう。」 -まあるいボール-	いっしょにつけてよ 「13-4のれいさんのしかたを考えよう。」 -ネット-図解ブロック	まあるいゲーム 5 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード	まあるいゲーム 1 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード	まあるいゲーム 2 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード
いっしょにつけてよ 「10-9の計算して気づいたことを発表しよう。」 -交流-	いっしょにつけてよ 「13-4のれいさんのしかたを考えよう。」 -ネット-図解ブロック	まあるいゲーム 1 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード	まあるいゲーム 1 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード	まあるいゲーム 2 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード
いっしょにつけてよ 「人権委員会に向けて、練習しよう。」 -保護ごとに練習-体育館	いっしょにつけてよ 「13-4のれいさんのしかたを考えよう。」 -ネット-図解ブロック	まあるいゲーム 1 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード	まあるいゲーム 1 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード	まあるいゲーム 2 「まあるいボールをしよう、いっしょに練習しよう。」 -まあるいボール-持久走カード

【視点2の取組を位置づけた週案】

《中期目標》主体的に課題を追求し、根拠をも  
《成果指標》令和4年度の全国調査の標準化得点：

《短期目標》基礎的な知識・技能を習得し、それを  
《成果指標》令和2年度の全国調査の標準化得点：  
(令和2年度福岡県学力調査【中1】において、

## Step2 (共有) イチオンPoint! 「全校の子どもの変容を断続的に確認」

取組による全校の子どもの変容を断続的にグラフ化し、確認することで、職員が取組に対する意欲付けを行いました。

### ■視点5

#### 【家庭・関係機関との連携】

##### 〈取組(指標)〉

- 家庭学習取組表(1・2学期提出 児童の成果と課題、保護者記入)
  - 学力支援スタッフや地域ボランティアによる補充学習、プリント、テスト等のやり直しの徹底
- ##### 〈成果(指標)〉
- ◆質問紙調査「計画を立てた勉強」の結果(している・どちらかをしている70%以上)
  - ◆保護者アンケート「宿題は毎日できている」の結果(できている・だいたいできている70%以上)

### ■視点2

#### 【授業づくり】

〔基礎・基本の確実な習得〕

##### 〈取組(指標)〉

- ①④学習のまとめ(分かったこと)を自
- 〈成果(指標)〉
- ◆児童による授業評価(「授業が分かるがはっきりしている」3.3以上:4段階評定尺「根拠を明確にして書きまとめ、解決し

##### 〈取組(指標)〉

- ②③自他の考えを出し合い、自分の考を見つけ、検討し合ったりする交流活動
- 〈成果(指標)〉
- ◆児童による授業評価(「学習の中で、時間がある」3.3以上:4段階評定尺

### ■視点3

#### 【学力基盤づくり】

- ##### 〈取組(指標)〉
- 習熟度別少人数授業の中で補充・発展問題
  - 学習プリント、テストの書き直しの徹底
  - 学級の支持的風土づくり
- ##### 〈成果(指標)〉
- ◆学期末の国語「読む」「漢字・ことば」算数
  - ◆「自分によいところはある」「学校は楽しい」
  - ◆QUテストによる客観的見取り

### ■視点1-①

#### 全国学力・学習状況調査結果及び児童による授業評価から見た課題

標準化得点	国語	算数	A 必要な情報を選び、条件に合わせて書きまとめ B 計算のきまりや用語を理解し、それをを用いて問 C CD層の割合 全国比 国語-○
	質問紙調査等	D 授業中、自分の考えの説明、文章に書く時間がある(全国学質問紙 自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組立を工夫し発表する +○) →場の設定はされているが、書く力や話す・聞く力が身につ E 自分には、よいところがある(全国質問紙:当てはまる・まあまあ あ ○%) →意欲の力ベになっているのはどんなことか。	

# Step I (作成) イチオンPoint!

## 「授業づくりの基盤となる視点3と4」

視点2の授業づくりを支えるためには、視点3に示す「学級の支持的風土づくり」の取組が重要です。その取組を実施するために、視点4に「SS T研修、CAP研修」を設定し、職員の指導力の向上を図りました。



【CAP研修テキスト】

とに自分の考えを表現できる子どもの育成  
国語○算数○以上

活用して課題を解決できる子どもの育成  
国語○算数○以上  
県標準化得点 国語○数学○

学力向上のためには、  
子どもの非認知能力を  
高めることが大切なん  
だね。



### ■視点4

#### 【教員の意識・指導力の向上】

##### 〈取組(指標)〉

- 学力調査問題(全国・県・市)等の結果全体考察・研修(8・12月)
- 交流活動での自他の考えを比べ、付加・修正・深化することをねらいとした授業を公開(全員)
- 一人ひとりの出席ややる気の保障
- 小中合同の研究会の実施(年間2回)

##### ○ SST研修、CAP研修

##### 〈成果(指標)〉

- ◆ 教員アンケート(「自分の考えを分かりやすく説明」3.3以上:4段階評定尺度)

分の言葉で書く場の設定と評価

る」「毎時間の授業で何を学習したか(尺度)

たことや考えを表現する力の育成]

えを付加・修正したり、類似点や相違点を行う。(週3回以上)

自分の考えを文章に書いたり、交流(尺度)

を実施する。  
評定1の児童への個別指導(相外による支援)

「考える力」(上位群2%以上増加、下位群4%以上減少)

(「よてはまる」「よめよめめではまる」:80%以上) 員向調査紙

A~Eの  
課題とその  
要因の①~  
④、そして、  
取組の3つ  
のつながり  
が記号と数字  
で明確に  
示されてい  
るね。



### 要因(授業づくりやその他学校の学力向上の取組)

ること  
題を解くこと  
算数一

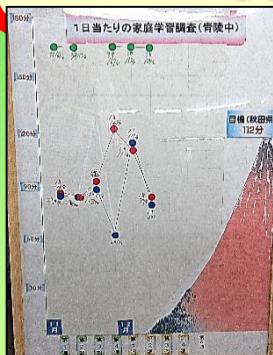
- ① 学習のめあてや見通しを明確に持たせ、まとめを自分の言葉で書かせる場の定着が不十分(A、B、D)
- ② 考えながら聞く指導の徹底が不十分(A、D)
- ③ 多様な考えを引き出し、つなぐ手立てや発問が不十分(A、D)
- ④ 家庭学習の定着、書き直しの徹底が不十分(B、C、E)

+7.2)  
(全国質問紙  
いていない。  
てはまる。

# 推進校③：青陵中学校の学力向上プラン

## Step2 (共有) イチオンPoint! 「成果の視覚化」

家庭学習時間の調査結果をグラフ化して、  
変容を生徒、教員が確認できるようにしました。  
個人の変容は保護者とも共有しています。



【1日当たりの家庭学習調査】

### ■視点1-②

《中期目標》習得した知識・技能を活用して  
〈成果指標〉令和4年度の全国調査の標準化得点

《短期目標》習得した知識・技能を活用して自分の考え  
〈成果指標〉令和2年度の全国調査の標準化得点：

### ■視点5

#### 家庭・関係機関との連携

〈取組(指標)〉

- ①「提出物の管理」・保護者連絡の家庭学習習慣の強化

②家庭学習の個票提示〈見える化〉

〈成果(指標)〉

- ◆提出率(期限内提出8割以上)
- ◆1時間以上の家庭学習(8割)
- ◆3学期1日平均1年90分、2年100分、3年120分以上
- ◆3学期2回の個票配布、回収・コメント確認

### ■視点2

#### 【授業づくり】

〔基礎・基本の確実な習得〕

〈取組(指標)〉

- ②具体的方向性を示す「めあて」の設定と、  
びの振り返りの実施(週案へ「めあて」

〈成果(指標) 4段階評価〉

- ◆生徒による授業評価(「めあての

〔根拠を明確にして書き・まとめ、

〈取組(指標)〉

- ①青陵学び合いスタイル(「表」の言語活動)の授業づくり

〈成果(指標) 4段階評価〉

- ◆生徒による授業評価(「書く、

### ■視点3

#### 【学力基盤づくり】

〈取組(指標)〉④放課後・休業期間の補充学習(毎週3回

- ④1.2年生における朝学習実施
- ②チャレンジノートの提出率と質の向上、及び

〈成果(指標)〉◆C層、D層の生徒の家庭学習時間の

- ◆1.2年生の朝読書時間のうち、毎週
- ◆チャレンジノートの使い方と記載方法の

### ■視点1-①

#### 全国学力・学習状況調査結果及び生徒の授業評価から見た課題

標準化得点	国	数	英	英(話)
質問紙調査等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し合う活動で考えを広める・深める」→全国比-0pt</li> <li>・「発表で、資料や文章、話の組み立ての工夫」→全国比-0pt</li> <li>・「家で、計画を立てて勉強している」→全国比-0pt</li> </ul>			

C,D層の割合が全国と比較し国語で0pt、  
数学で0pt、英語で0pt高い。(R1)  
各教科で学習用語の習得、国語は根拠を  
明確にして自分の考えをもつ力に課題。

## Step1 (作成) イチオンPoint! 「全職員で自校採点」

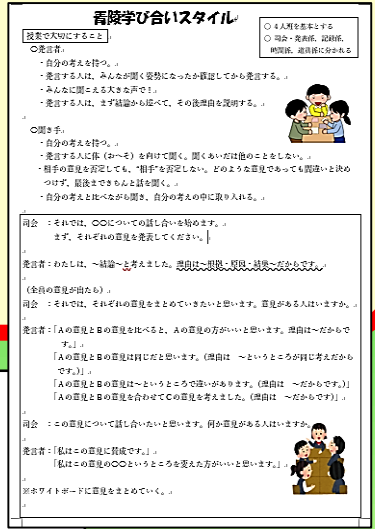
全ての教科・領域での実践につながるように、全職員で採点を行い、子どもの実態把握をしました。



# Step2 (共有) イチオンPoint!

## 「『青陵学び合いスタイル』の具体化」

「個人」→「班」→「全体」での言語活動を定着させるために、右のように具体的に示しました。活動モデルを示すことでスムーズにとり入れることができます。



【学び合いスタイルの活動モデル】

自分の考えを表現し、課題を解決ができる生徒の育成

： 国語 ○以上、数学 ○以上

を持ち、それを説明したり、表現したりできる生徒の育成

国語 ○以上、数学 ○以上

### ■視点4

#### 【教員の意識・指導力の向上】

<取組（指標）>

- ④⑤定期考査に思考力問題を出題（全学年・全教科1題以上）
- ②⑤各教科等研究授業の実施（指導主事による指導案事前検討会の実施：全学年1回以上）
- ③小・中合同研修会（年2回）
- ①課題に応じたミニ研修会実施

<結果（指標）>

- ◆教職員アンケート（「言語活動の充実」ができたか）3.2以上
- ◆月1回約15分の研修会

「めあて」に対峙した「まとめ」による、学「振」の記載：各教科授業時数の7割実施

提示「まとめ」3.4以上

解決した考えを表現する力の育成

（「個人思考」「班交流」「全体発（各教科授業時数の3割実施）」

話す活動」「個考えをもつ」3.4以上

<多目的室等：C層、D層の生徒への声かけ>

その活用に関するコメントや支援

増加（1日平均1時間以上）

月曜日は朝学習の時間設定

遵守（提出率8割、目標・課題の意識：7割）

#### 要因（授業づくりやその他学校の学力向上の取組）

- ①授業において言語活動を充実させる具体的な手立てが不十分。
- ②授業及び家庭学習等（チャレンジノート含）における主体的な目標設定ができていない。
- ③小・中学校の系統だった実態把握と目標設定の取組が不十分。
- ④問題を読み解く力、語彙力を身に付けるための指導が不十分。
- ⑤考えを書いたり、表現したりする学習活動の設定が不十分。

家庭学習時間の変容を生徒はもちろん、教師、保護者とも共有することで、みんなの意識が一つになることにつながるね。



# Q.6 学力向上プランの実践に取り組んで感じたよさは？



## 実践推進校の教師アンケートより

家庭学習の時間が長くなってきている。

理由 担任を持つ先生だけでなく、様々な先生方の意見が聞けるし、がんばりやすいと思うから。

ふり返りごと自分の授業力について他の先生方の先生方も話すことが多いため。

理由 取り組む具体化、方向性を確認することで、職員全体の意識が高まったため。

自分のような若年教員にはとても勉強になるので。

子どもたちのことを全員で考え、いくことは協働意識(ワークシェアリング)が高まっていると思うから。

- 子どもの向上的な変容を感じた
- 自分自身の授業改善につながる
- 学校の協働意識の向上につながる

もっと実効性のある(子どもにとってより効果があり、教師が取り組みやすい)プランにしたい！

Step1  
プランの  
作成

Step2  
プランの  
共有

Step3  
プランの  
改善

vol.2は、Step3「プランの改善」について掲載予定です。

【令和元年度 学力向上研究班】

学校教育課 指導主事 下川 嘉満、内田 良一

教育センター 指導主事 徳永 裕輔、松澤 善明

学力向上実践推進校 合川小学校、城島小学校、青陵中学校

久留米市教育センター 福岡県久留米市南1丁目8番1号

TEL:0942(36)9777/FAX:0942(35)9930

